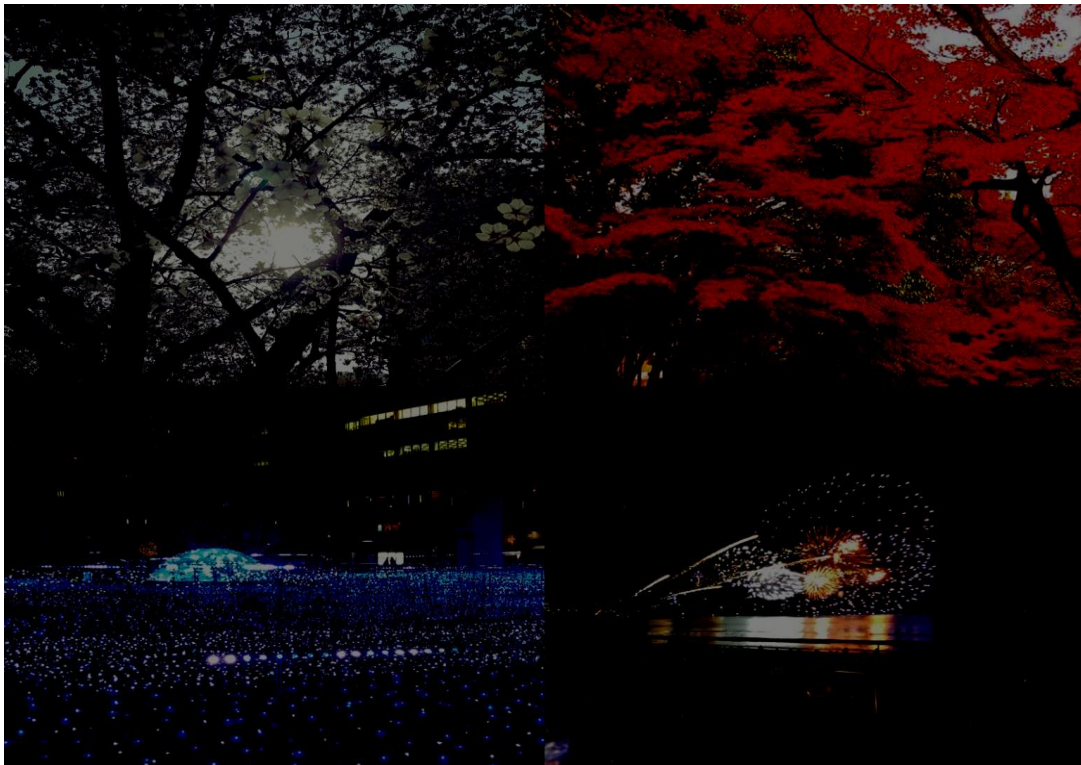


日本にいるフランス人

ブリオン サラ
パリディドロ大学

2016年の10月に日本にやっと着きました。一年間の留学なので、日本の四季を経験できて、様々な景色が見られました。まず、秋でした。日本の秋と言えば、もちろん紅葉のことを考えるでしょう。東京で紅葉を見ることができる場所があまりないと思うので、旅行したほうがいいと思っています。去年の秋に京都に行きました。11月なのに、紅葉は結構残っており、綺麗に見られましたが、清水寺は避けたほうがいいと思いました。人々が多く、あまり進めなかったので、楽しくない経験でした。しかし、金閣寺の紅葉は非常に素晴らしかったです。冬はクリスマスの季節ですが、日本はキリスト教の国ではないのに、たくさんのイルミネーションがありました。六本木ヒルズのイルミネーションが一番きれいだと思います。なぜなら、音楽もあったし、光っている時間も結構長かったからです。日本の春と言えば、もちろん桜のことを考えるでしょう。今年、桜の開花は遅かったので、満開の桜はあまり見られませんでした。上野公園の桜は素敵でした。その上、上野公園では祭りがあって、パンダの形のカステラを買いました。可愛くて、食べたくなくなりました。日本の夏は大変です。日々進めば進むほど暑くなり、湿気がひどくなってきます。日本の夏と言えば、祭りと花火大会のことを考えるでしょう。平塚七夕祭りに行ったのが、初めて行った祭りだったので、とても感動しました。伝統に沿って、短冊をお願いごとも書きました。花火大会と言ったら、隅田川花火大会が一番有名なのですが、毎年雨が降るらしいので、結構大変です。しかし、ハートの形でとても綺麗な花火でした。ぴかぴかと光っていました。



寮の生活も楽しかったですが、大変なときももちろんありました。例えば、自炊して見ましたが、火傷をしてしまいました。フランスでは火傷をしてしまうと、歯磨き粉を火傷に塗りますが、友達がこれを見たら、日本ではありえないと言われました。その時、異文化を感じました。寮の生活のおかげで日本の生活のことをよく学べました。

大学の授業は私のレベルに合っていて、日本語が上達しました。大学では4月から7月までアルバイトとして *café français* という活動をやっていました。*café français* というのはフランス語を勉強している大学生にフランス語を教えるというものでした。将来、フランス語の先生になりたいので、フランス語の教え方を少し体験でき、私の目標に合っていました。お茶の水女子大学の大学生はフランス語のレベルが高くて、私が彼女たちの役に立つか役に立たないか不安でしたが、先生と生徒の関係だけではなく、いい友達もできたので、とても嬉しいです。

日本では他の留学生と比べると、そんなに旅行しませんでした。よく東京の周りに行って、京都をはじめとして、神戸、大阪に行きました。神戸ではホームステイファミリーの家に泊まって、日本人の赤ちゃんと出会い、日本人の育て方の違いもわかりました。日本人の子供はとても自由だと思います。

この一年間で、日本語が上手になっただけではなく、精神的にも大人になることができました。自分で料理を作り、自分で洗濯し、自分で旅行も計画しました。留学生たち、先生方、友達のおかげで、いい思い出ができて、幸せな一年間でした。